

全農薬通報

No. 334

令和4年6月30日

目 次

◎主な行事予定

- ・全国農薬協同組合
- ・植物防疫関係団体

◎組合からのお知らせ

- ・植物防疫関係団体の総会等
- ・2022年度農薬危害防止に関する講演会報告
- ・農薬安全コンサルタントリーダー資格取得者の紹介

◎行政からのお知らせ

- ・「農薬として使用することができない除草剤の販売等について」周知徹底
- ・令和4年度の蜜蜂被害軽減対策の推進について

◎全農薬ひろば

- ・アジサイの花色



全国農薬協同組合



〒101-0047 東京都千代田区内神田 3-3-4 全農薬ビル

TEL：03-3254-4171

FAX：03-3256-0980

<https://www.znouyaku.or.jp> E-mail：info@znouyaku.or.jp

全農薬の主な行事予定

「全国農薬協同組合」

令和4年(2022年)

7月28日(木) 第49回安全協常任幹事会

9月21日(水) 執行部協議会・各委員会・第304回理事会

10月上旬 植物防疫研修会

10月中旬～11月上旬 農薬安全コンサルタントリーダー研修会

10月25日(火) 監査会(理事長、監事)

11月16日(水) 第305回理事会

11月17日(木) 第57回通常総会・第306回理事会

第45回安全協全国集会・情報交換会

12月14日(水) 執行部協議会・第307回理事会

12月15日(木) 全農薬受発注システム利用メーカー協議会総会

「植防関係団体」

農薬工業会

11月16日(水) 虫供養

報農会

9月28日(水) 第37回シンポジウムおよび功績者表彰式



ヤマユリ(山百合、学名：*Lilium auratum*)

花言葉：『荘厳』『威厳』『純潔』

組合からのお知らせ

1. 農薬工業会

開催日時：令和4年5月18日（水）第91回通常総会と講演会

開催場所：鉄鋼会館（日本橋茅場町・Web併用）

(1) 総会

本年度も新型コロナウイルス感染防止対策として会場での出席者を最小限とするためWEB併用で行われた。総会では、2021年度事業報告、収支決算並びに2022年度事業計画、予算案等を承認するとともに、新年度の役員（理事・監事）を選任し、新理事から、会長、副会長及び専務理事を選任した。会長、副会長、専務理事及び役員会社は次のとおり。



左から

廣岡 卓 事務局長、 松浦 克浩 専務理事
小澤 敏 副会長、 本田 卓 会長
的場 稔 副会長、 藤本 博明 副会長

(2) 新年度役員

会 長 本田 卓（日産化学株式会社 取締役副社長）

副 会 長 的場 稔（シンジェンタジャパン株式会社 代表取締役社長）

副 会 長 藤本 博明（住友化学株式会社 執行役員）

副 会 長 小澤 敏（三井化学アグロ株式会社 代表取締役社長）・新任

常勤理事 松浦 克浩（農薬工業会専務理事）

幹事 吉田 潔充（石原産業株式会社 取締役常務執行役員）

幹事 寒河江充宏（株式会社エス・ディー・エスバイオテック 代表取締役社長）

幹事 安藤 敏（協友アグリ株式会社 代表取締役社長）・新任

幹事 小池 好智（クミアイ化学工業株式会社 代表取締役会長）

幹事 藤井 茂樹（ダウ・アグロサイエンス日本株式会社 代表取締役社長）

幹事 溝口 正士（日本曹達株式会社 執行役員）・新任

幹事 友井 洋介（日本農薬株式会社 代表取締役社長）

幹事 大島 美紀（バイエルクロップサイエンス株式会社 ビジネス開発部長）

幹事 野田 信介（BASF ジャパン株式会社 マーケティング 部長）・新任

幹事 佐野 健一（北興化学工業株式会社 代表取締役社長）

<各委員会委員長>

運営委員会	小松 英司（日産化学株式会社）
技術委員会	吉田 浩之（シンジェンタジャパン株式会社）
広報委員会	鈴木 欣也（住友化学株式会社）
安全対策委員会	乾 公正（石原産業株式会社）
国際委員会	中村 雅彦（三井化学アグロ株式会社）

(3) 講演会

YouTube などを通じて農業の現場から情報発信を続ける、鳥取県の農業法人「トゥーリーアンドノーフ」代表取締役の徳本修一氏が「これからのプロ農家は“作る”だけでなく、ファクトを“発信”しなければならない」と題して、下記のとおり講演した。

- ・ネットメディアなどで現場と乖離した情報が流されている。1人でも多くの人に農業の真実を伝えるため、さらに情報発信に力を入れたい。
- ・2012年に異業種から参入して有機農業や6次産業化などに挑戦をしたが失敗を重ね、3年前から飼料米などを中心に米や野菜を生産している経緯を紹介、将来的には「超大規模化」を目指し、2030年には1000haに広げたい。
- ・持続可能な農業の確立を目指すうえでのポイントの1つとして、「発信」を強調。
- ・ネットの台頭でポピュリズムが間違った方向に進み、現実をしっかりと発信しないと偏った情報が広がってしまい行政が迎合してしまうことを危惧。事実に基づいた情報発信に努めている。

現在、SNS等で積極的に情報を発信し、2年間で106本の動画を発信し、再生回数は810万回、特に農業のファクトを伝える「農業の真実」シリーズは反響があり、批判も多い半面、同業者や消費者から多くの賛同を得ており、農業の現場から発信することで、強い影響力となっている。



参考

「農業の真実：グリホサートの真実」安全協 田邊副会長（鳥取県支部）をゲストに除草剤について情報発信する徳本氏の YouTube 動画

<https://www.youtube.com/watch?v=CIYWN-4pIE&t=17s>

2. (一社) 日本植物防疫協会

開催日時：6月10日(金) 第10回 総会

開催場所：アートホテル日暮里ラングウッド(荒川区東日暮里・Web併用)

出席者：大森 理事長、 植草 技術顧問

総会次第

1. 開会
2. 早川理事長挨拶
3. 議長選出及び議事録署名人選任
4. 議事

定款の規定に基づき、早川理事長が議長となり、富田専務理事、曾根常務理事及び高木常務理事から提出議案の説明が行われた。



挨拶される早川理事長

(1) 第1号議案 2021年度事業報告及び収支決算に関する件

事業報告について、実施事業、試験研究事業、支援事業及び不動産賃貸事業等への取り組みの報告及び2022年度事業計画のポイント並びに収支決算についての説明が行われた後、岡田監事から監査報告がなされ、当議案は原案どおり異議なく承認された。



日本植物防疫協会総会の様子

(2) 第2号議案 役員改選に関する件

役員改選については、重任することとなった。新役員の一覧は下記のとおり。

《新役員一覧》（敬称略）

【理事】（8名）

大森 茂、曾根 信三郎、高木 豊、田中 啓司、富田 恭範、西尾 健

早川 泰弘、本田 卓

【監事】（2名）

岡田 茂、堀江 博道

(3) 第3号議案 役員報酬に関する件

理事会で承認された2021年度予算同との説明後、原案どおり異議なく承認された。

(4) 第4号議案 会費に関する件

前年同との説明後、原案どおり異議なく承認された。

総会終了後に第34回理事会を開催し、代表理事及び業務執行理事の選定を行い新執行部として以下4名が就任した。

《新執行部》

代表理事・理事長 早川泰弘

代表理事・専務理事 富田恭範

業務執行理事・常務理事 曾根信三郎

業務執行理事・常務理事 高木 豊

3. (公社) 緑の安全推進協会

開催日時：6月21日(水) 第33回 通常総会

開催場所：TKP 神田駅前ビジネスセンター

(千代田区鍛冶町)

出席者：大森 理事長

総会次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議長選出
4. 議事録署名人選出
5. 議事の目的事項



議長：根岸会長

(1) 決議事項

第1号議案 2021年度事業報告及び収支決算承認の件

公益目的事業の「緑の安全管理士関係事業」・「講師派遣事業」・「出版事業」について、理事会・総会・委員会・専門部会等会議の開催状況、監査の実施と適正報告の受領が報告された。引き続き会員の動静について、退会4会員となり昨年度末で141会員となった。



緑の安全推進協会総会の様子

第2号議案 理事の退任に伴う補欠の理事選任の件

理事4名の任期途中辞任により、定款26条第3項に基づき補欠として理事が選任された。

小澤 敏（三井化学アグロ株式会社 代表取締役社長執行役員）
河西康弘（住友化学株式会社 マーケティング部長）
住田明子（全国農業協同組合連合会 本所 耕種資材部次長）
永井統尋（日本農薬株式会社 総務・法務部長）

参考：現行役員

足立純一（シンジェンタジャパン株式会社 プロフェッショナルソリューション営業本部長）
梅田公利（住友化学園芸株式会社 代表取締役社長）
大森 茂（全国農薬協同組合理事長）
小林由幸（株式会社ロイヤルグリーンメンテナンス 代表取締役社長）
篠原卓朗（株式会社理研グリーン 代表取締役社長）
本田 卓（日産化学工業株式会社 取締役副社長）
根岸寛光（公社・緑の安全推進協会 会長）
白岩 豊（公社・緑の安全推進協会 専務理事）

6. 報告事項

・2022年度事業計画

- （1）農薬の適正使用に関する研修「緑の安全管理士」資格試験事業
- （2）農薬の適正使用に関する知識の普及・啓発事業
- （3）農薬の適正使用に関する図書・出版物の発行等
- （4）会員や一般への情報提供
- （5）委員会活動等

・2022年度収支予算

以上が報告され承認された。

4. (一社) 農林水産航空協会

開催日時：6月15日(水) 第120回 総会

開催場所：都道府県会館 101 会議室(千代田区平河町)

出席者：鈴木 敦 参事



農林水産航空協会総会の様子

開会

1. 会長挨拶
2. 農林水産省挨拶
3. 議長選出
4. 議事録署名人の指名
5. 議案審議

第1号議案 令和3年度事業報告(兼事業報告の明細書)に関する件

- ・会員数
- ・理事会-総会関係
- ・令和3年度事業報告

農林水産業における航空機等(有人ヘリコプター及び産業用無人航空機(無人ヘリコプター及びマルチローター式小型無人機(以下、「マルチローター」という))の利用(薬剤、肥料、種子の散布等に利用する事業)の安全かつ効率的な推進を図ることにより、農林水産業の安定生産、生産性の向上を図り、もってわが国の食料自給率の向上、国民の食の安全、生活・自然環境の保全に寄与することを目的とし次の事業を実施した(内容省略)。

第2号議案 令和3年度財務諸表承認に関する件

- ・正味財産増減計算書
- ・貸借対照表
- ・財産目録
- ・監査報告

第3号議案 令和4年度会費の分担及び徴収方法に関する件

第4号議案 令和4年度役員報酬の総額に関する件

第5号議案 役員の改選に関する件

・一般社団法人 農林水産航空協会役員

会 長	福盛田 共義	(農林水産航空協会)
常務理事	五月女 淳	(農林水産航空協会)
理 事	中島 満	(農林水産航空協会)
理 事	青木 久幸	(朝日航洋株式会社 新任)
理 事	宇田川 雅之	(東邦航空株式会社)
理 事	長田 眞陽	(ヤンマーヘリ&アグリ株式会社)
理 事	倉石 晃	(ヤマハ発動機株式会社)
理 事	住田 明子	(全国農業協同組合連合会 新任)
理 事	高橋 宏和	(日本植物調節剤研究協会)
理 事	徳井 和久	(全国農業共済協会)
理 事	中村 雅人	(北陸スカイテック株式会社)
理 事	西修 平	(鹿児島国際航空株式会社)
理 事	藤本 博明	(農薬工業会)
理 事	二神 一	(中日本航空株式会社)
理 事	元広 雅樹	(全国農業協同組合中央会 新任)
理 事	柚木 茂夫	(全国農業会議所)
監 事	鈴木 敦	(全国農薬協同組合)
監 事	高橋 正幸	(公認会計士)

以上のとおり承認された。

閉会

5. (一財) 残留農薬研究所

開催日時：6月21日(火) 第11回 評議員会

開催場所：霞が関法曹会館(千代田区霞が関)

出席者：大森 茂 理事長

評議員会次第

1. 理事長挨拶
2. 来賓挨拶
3. 議長選任
4. 議事録署名人の選任
5. 報告

(1) 2021年度事業報告

事業の経過及びその成果

当研究所は、農薬等の残留及び毒性に関する各種試験及び調査研究等を行うことにより、その安全性の確保を図り、もって人の健康の保護及び環境の保全に寄与すること

を目的として、農薬等の残留性及び毒性に関する

- ①各種試験の受託実施、
- ②国関係委託事業等、
- ③調査研究、④技術及び知識の普及並びに⑤試験及び試験成績についてのコンサルテーションを行っている。さらに、⑥その他研究所の目的を達成するために必要な事業を行うこととしている(一部)。



議長：高橋宏和 評議員(日植調専務理事)

残研評議員会の様子

(2) 2021年度公益目的支出計画実施報告(内閣府提出)

6. 審議

第1号議案 2021年度貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認に関する件

第2号議案 評議員の選定

溝口評議員及び山田評議員から2022年5月31日付け、辞任届が提出されたことに伴い、溝口評議員の後任に農薬工業会 副会長 小澤 敏 氏を選任する。また、山田評議員の後任に全国農業協同組合連合会 耕種資材部 次長 住田 明子 氏を選任する。

なお、小澤評議員及び住田評議員の任期は、2024年6月の定時評議員会終結の時までとなることが承認された。

第3号議案 役員の選任に関する件

現理事の任期が、2022年6月21日評議員会終結の時をもって満了とするに伴い、本評議員会の決議により理事の選任を行い、以下のとおり承認された。

• 一般財団法人 残留農薬研究所 理事

理事	青山 博昭	(残留農薬研究所 業務執行理事 研究部門担当)
理事	大友 哲也	(残留農薬研究所 参事)
理事	大山 和俊	(残留農薬研究所 化学部長)
理事	長田 良種	(残留農薬研究所 業務執行理事 総務部長)
理事	首藤 康文	(残留農薬研究所 毒性部長)
理事	原田 孝則	(残留農薬研究所 理事長)
理事	牧 伸一	(残留農薬研究所 常務理事 試験事業部長)

閉会

6. (公財) 日本植物調節剤研究協会

開催日時：5月27日(金) 第11回評議員会 (リモート会議)

【報告事項】

1. 2021年度事業報告

【決議事項】

1. 2021年度決算の承認

2. 理事・監事の選任(任期満了に伴う改選)

再任理事 大谷 敏郎、腰岡 政二、品田 裕二、高橋 宏和、伊達 寛敬、
田中 良、長澤 裕滋、横山 幸徳

新任理事 小澤 敏、小林 浩幸、酒井 長雄、田中 浩平、濱村 謙史朗

再任監事 大倉 祐介

新任監事 松本 宏

退任理事 大隈 光善、中澤 伸夫、松本 宏、溝口 正士、渡邊 寛明

退任監事 佐合 隆一

3. 評議員の選任(任期期間中の交代)

新任評議員 小國 浩一、住田 明子

退任評議員 小澤 敏、山田 正和

開催日時：2022年5月27日(金) 第28回理事会 (リモート会議)

第11回評議員会終了後に開催

【議案】

1. 代表理事及び業務執行理事の選定

代表理事（理事長） 大谷 敏郎
代表理事（専務理事） 高橋 宏和
業務執行理事（常務理事） 濱村 謙史朗

2. 重要な使用人の選任

事務局長の選任 田中 十城

7. (公財) 報農会 定時評議員会議

開催日時：6月3日（金）定時評議員会議（オンライン会議）

参加：大森 茂 理事長

議事次第

1. 開会
2. 理事長挨拶及び来賓挨拶
3. 議長及び議事録署名人の選出
4. 議案
 - 第1号議案 令和3年度事業報告に関する件
 - ・事務報告
 - ・事業報告
 - 第2号議案 令和3年度収支決算報告に関する件
 - ・貸借対照表
 - ・正味財産増減計算書
 - ・財産目録
 - ・監査報告書
5. 報告事項
 - (1) 育英費受給申請の受付状況
 - (2) 就農希望者への奨学金受給申請の受付状況
 - (3) 植物防疫に関する学術・技術の交流援助申請受付状況
 - (4) 植物防疫の発展に寄与した功績者の表彰(第37回)
 - (5) 植物防疫に関する公開シンポジウム(第37回)の開催 令和4年9月28日(水)
6. 閉会

8. 2022年度 農薬危害防止に関する講演会 報告

～ドローンの効率的利用と安全確保～

ハイブリッド方式(Web開催および現地開催)

主催：農薬工業会安全対策委員会

開催日時：2022年6月22日(水) 13:30～17:00

開催場所：日本教育会館 707号室(千代田区一ツ橋)

会場参加：25名

リモート参加：113名(メールアドレス数)

参加：植草 技術顧問

・開会挨拶 農薬工業会 専務理事 松浦 克浩

・講演

『農薬の危害防止について』

農林水産省農産安全管理課

農薬対策室 課長補佐 濱砂 信之

『航空法の改正による無人航空機の新たな制度と農薬の
適正使用』

(一社)農林水産航空協会 常務理事 五月女 淳

『ドローンの農業場面における活用方法と今後の
取り組み』

バイエルクロップサイエンス株式会社

アジアパシフィック マーケティング部 波田 康弘

『ドローンの適正使用における農薬メーカーとしての
考えや取り組みについて』

シンジェンタジャパン株式会社

技術企画渉外部 齊藤 健央

・質疑応答・アンケート記入

・閉会挨拶 農薬工業会安全対策委員長 乾 公正

講演の内容については全農薬ホームページ安全協ポータルサイトに7月4日より掲載予定です(組合員限定サイトなのでパスワードが必要です、忘れた組合員方は事務局までご連絡ください)。



農薬工業会
松浦 克浩 専務理事



農薬対策室
濱砂 信之 課長補佐



農林水産航空協会
五月女 淳 常務理事



農薬工業会 乾 公正
安全対策委員長

9. 農薬用保護マスク研究会総会

開催日時：6月20日（月） ハイブリッド会議（1名 Web 参加）

開催場所：AP秋葉原4階H会議室（台東区秋葉原 1-1 秋葉原ビジネスセンター）

出席者：植草 秀敏 技術顧問

総会次第

1. 挨拶 日本くん蒸技術協会 大村 克己 専務理事
2. 来賓挨拶 農林水産省消費・安全局農産安全管理課
農薬対策室 濱砂 信之 課長補佐



総会の様子（机の配置はコの字、パノラマで全体を撮影）

3. 議事

(1) 令和3年度事業報告及び収支決算に関する件

- ・令和3年度農薬用保護マスク研究会総会
- ・関係資料の印刷及び配布
- ・都道府県等が開催する「農薬安全使用講習会」への講師派遣事業
- ・マスク講習会の概要
- ・農薬の種類と対応マスク検索用エクセルファイル
- ・農薬用マスクの識別表示（シンボルマーク）の活用
- ・マスク研究会関係ホームページの整備
- ・啓発用ビデオの作製
- ・クロルピクリン土壌くん蒸安全対策事業の活用
- ・決算報告及び会計監査報告

(2) 令和4年度事業計画及び予算案に関する件

- ・「農薬散布用に使用するマスクの手引き」とチラシの活用
- ・インターネットでの公開
- ・普及啓発活動の実施
- ・マスク専門家派遣事業の実施
- ・農薬の種類と対応マスクの検索ファイルの改訂及び公開
- ・農薬用マスクの識別表示（シンボルマーク）の活用

- ・クロルピクリン土壌くん蒸安全対策事業の活用
- ・マスク研究会の体制の整備
- ・啓発用ビデオの活用
- ・日本産業規格（JIS）原案作成委員会への参加
- ・令和4年度予算

(3) 会則の一部改正について

- ・昨年の総会に基づき、研究科名称を「農薬用マスク・保護具研究会」とし、取扱の対象をマスクのほか防除衣、不浸透性手袋等の保護具としたため一部改正を行った。

4. 報告事項

- (1) 令和3年度マスク講習会派遣実績
- (2) 講師派遣実績
- (3) 農薬の種類と対応マスクの検索
- (4) 識別マークのある市販のマスク一覧
- (5) 啓発用ビデオの作製

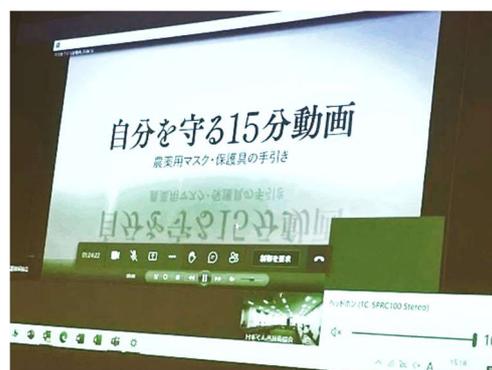
5. 情報提供

- (1) 動画鑑賞「自分を守る15分動画」
- (2) 「農薬の安全性と科学的の不定性」

内田 又左衛門 顧問

6. その他

株式会社重松製作所 今川 輝夫 氏は退職され、引き続き顧問に就任される。



今年度作製された啓発用ビデオ



講演される内田顧問

10. 令和3年度 農薬残留基準値超過事案・不適正使用事案

例年、農薬対策室から「農薬残留基準値超過事案・不適正使用事案」を農薬指導関係者に限定して情報提供されます。

令和3年度（令和3年4月～令和4年3月）につきましても、期間中に発生した事案をまとめたファイルをいただきましたので、安全協の皆様にお伝えいたします。皆様が実施されている農薬の適正使用の指導に役立てていただくための参考にしていただければと存じます。

公表資料ではなく指導者限定の参考資料ですので、全農薬HP（<https://znouyaku.or.jp/>）安全協ポータルサイトにアップしております（赤い野菜が目印です、組合員限定サイトのためパスワードが設定されています）。

最初のページでは、令和3年度中に発生した事案33件の概要（作物、農薬名、原因等）を一覧表にとりまとめ、以降のページには、各事案の対応状況等を記載しています。食品衛生法で定めている残留基準値を超過する原因の1つとしてご紹介いただき、同様の事案の再発防止の参考にしてください。

取扱いにはご注意くださいようお願いいたします。

安全協・農薬コンサルタント専用コンテンツ

（令和4年6月）

R3残留農薬基準値超過・ 不適正使用事案

令和3年度（令和3年4月～令和4年3月）期間中に発生した事案をまとめたものです。

皆様が実施されている農薬の適正使用の指導において、超過する原因の1つとしてご紹介いただき、同様の事案の再発防止の参考にしてください。

取扱いにはご注意くださいようお願いいたします。

11. 農薬安全コンサルタントリーダー資格取得者の紹介

農薬安全コンサルタントリーダー研修会は、一昨年コロナ禍により中止を余儀なくされましたが、昨年度は2021年10月20日～11月5日の期間でメディア研修の形式で実施いたしました。また、今年度の各地区会議も人を集めての開催は中止となり、全農薬ホームページに設置しました安全協ポータルサイトを用いたリモート研修を視聴してアンケートに答えることでポイント付与を行う形式にて実施しました。

コンサルタントリーダーを目指す方々へメディア研修合格おポイント並びにリモート研修のポイントを付与したところ、今回は17名の方が資格取得ポイントに達しました。

例年、農薬安全コンサルタントリーダー資格取得者は各地区会議にて認定書をお渡しして皆さんへご紹介することになっておりますが、昨年同様に本通報にて皆様にご紹介させていただきます。



- 氏名：飯塚 智也
- 勤務先：株式会社 栗原弁天堂 埼玉支店
- 一言
今回、農薬安全コンサルタントリーダーに合格し、大変うれしく思います。
これからも農薬を通し、安心・安全な野菜作りに貢献できるよう技術の向上や農薬の適正使用の普及に努めていきたいと思っております。



- 氏名：井上 孝
- 勤務先：イノチオプラントケア株式会社
東北営業部
- 一言
果樹大国山形には色々な種類の果樹があり、病虫害防除の際には的確な指導はもちろん、飛散の事も考え薬剤指導に貢献できるように活動していきます。



- 氏名：岩村 友美
- 勤務先：イノチオプラントケア株式会社
- 一言
昨今の気候変動や世界を取り巻く情勢の中で、農業界でもより高度な技術の開発や習得、新しい視点での提案や取組を積極的に行っていく必要があると思います。SDGs 志向の持続可能な環境保全型農業の実践に向けて積極的に取り組んでいきたいと思います。



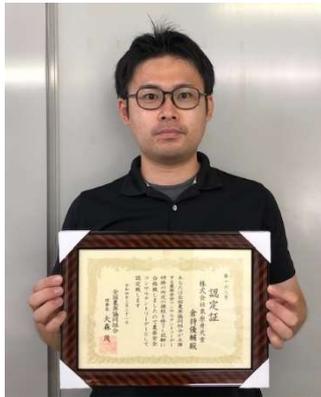
- 氏名：江口 茂樹
- 勤務先：カネコ種苗株式会社 福岡支店
- 一言
今後も農業・農薬を取り巻く環境の変化に対応し、農薬の適正・安全使用の啓蒙活動を通じ地域の農業の発展に寄与すべく日々研鑽に努めたいと思います。



- 氏名：江場 昭弘
- 勤務先：株式会社 栗原弁天堂 栃木支店
- 一言
みどりの食料システム戦略含め、農薬を取り巻く状況も今後変化していきます。技術向上に努め、現地での農薬適正使用活動の普及に努めて参ります。



- 氏名：大寄 大樹
- 勤務先：株式会社 山正 岐阜営業所
- 一言
今後も農作物の病害虫・雑草防除の知識と技術向上に努め、農薬の適正使用、より質の高い知識、技術を提供し農業生産の安定・省力化の普及につながる活動を行っていきたいと思います。



- 氏名：倉持 優輔
- 勤務先：株式会社栗原弁天堂 茨城支店
- 一言
農薬を取り巻く環境・状況は、今後大きく変化してくると思いますが、取引先顧客や生産者に寄り添い、質の高い情報提供と普及を目指していきたいと思います。



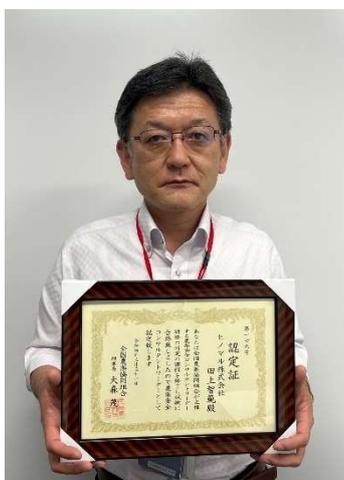
- 氏名：佐伯 和真
- 勤務先：日栄商事株式会社 福井支店
- 一言
福井県の農薬の安全普及のため尽力を尽くします。



- 氏名：佐藤 英樹
- 勤務先：株式会社 水沢農薬
- 一言
コンサルタントリーダーとして、これからも意識を高く持ちながら農薬の安全使用や効果的な病害虫防除などを推進していきたいと思えます。



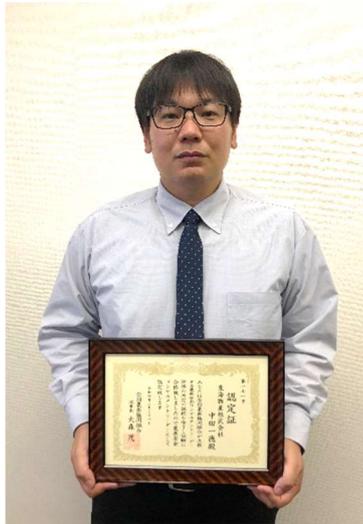
- 氏名：須田 幸夫
- 勤務先：株式会社 栗原弁天堂 千葉支店
- 一言
今年の世界情勢の変化に伴い生産資材の高騰に始まり、天候不順の影響も受け、例年と比べ病害虫の発生、商品動向も大きく変化してきております。
今後、私たちは農薬での防除技術の向上に努め、いち早く病害虫発生状況を察知し、農業現場に即した活動を心がけていきたいと考えております。



- 氏名：田上 智範
- 勤務先：ヒノマル株式会社
- 一言
農業を取り巻く環境は農作物価格の低迷・農業資材の価格高騰等、年々厳しい状況が続いていますが、「農薬安全コンサルトリーダー」としてよりの確に適正な農薬を提供出来る様、技術販売体制の強化に努めてまいります。



- 氏名：塚田 尚孝
- 勤務先：株式会社 栗原弁天堂 栃木支店
- 一言
人口増加や、食糧危機、コロナウイルスなど地球を取り巻く環境が変化している中で、農業、農薬の役割も変化しています。
その変化に対応できるよう、適切な知識、技術を身に付け貢献していきます。



- 氏名：中田 一徳
- 勤務先：東海物産株式会社 北陸支店
- 一言
農業の取り巻く環境が大きく変化する中、効率的で安定した農業生産が求められ、農業を支える生産資材の役割が重要になってきます。持続可能な農業に少しでも貢献できるよう今後も知識向上に努めて参ります。



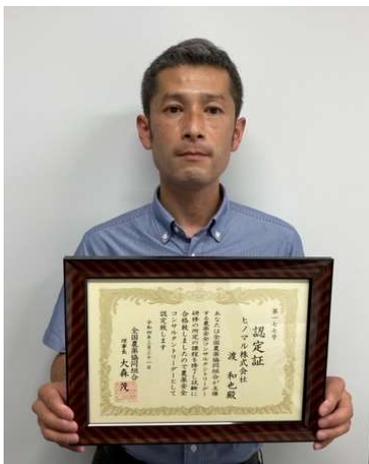
- 氏名：向 智輝
- 勤務先：株式会社 コハタ
- 一言
「コンサルタントリーダーとして今後も精進してまいります」



- 氏名：村上 将太
- 勤務先：株式会社アグログリーン 飯田営業所
- 一言
農薬安全コンサルタントリーダー資格を活用し、農薬の適正使用に努め、農業に発展に貢献できるよう尽力いたします。



- 氏名：村田 誠
- 勤務先：株式会社 栗原弁天堂 群馬支店
- 一言
今後とも、病害虫、雑草防除技術向上に努め、地域貢献ができるよう行動していきます。



- 氏名：渡 和也
- 勤務先：ヒノマル株式会社 熊本営業所
- 一言
今後も地域で問題となっている病害虫・雑草問題の解決に向け、知識・技術の向上に努め、日本の農業に貢献できるよう活動して行きたいと思っております。

関係団体からのお知らせ

1. 第37回報農会シンポジウム

『植物保護ハイビジョン2022』のご案内

～深まる困難な状況下で持続的農業を支えるイノベーティブな植物保護～

主催：公益財団法人報農会

協賛：一般社団法人日本応用動物昆虫学会、一般社団法人日本植物病理学会、
日本農薬学会、一般社団法人日本雑草学会

日時：令和4年9月28日(水) 10:00～16:00 (オンラインによるライブ配信)

〈プログラム〉

挨拶

報農会理事長 田付 貞洋

講演

- ・バイオスティミュラント：EUと米国、日本でのステータス
日本バイオスティミュラント協議会 和田 哲夫
- ・サツマイモ基腐病の発生と防除
農研機構九州沖縄農業研究センター暖地畑作野菜研究領域 小林 有紀
- ・環境配慮型水田における農薬の施用と管理
滋賀県立大学環境科学科 須戸 幹
- ・農業における水利用に通じて水田に侵入する水草たち
農研機構農村工学研究部門施設工学研究領域 嶺田 拓也
- ・震災復興を目指す「一社・雄勝花物語」と北限のオリーブ栽培
(一社)雄勝花物語共同代表 徳水 博志

参加費：3,000円(講演要旨集を含む、講演要旨のみ購入の場合は2,000円)

申込み：報農会ホームページに掲載しております『開催要領』をご覧くださいの上、申込用紙に必要事項を記入して、メール又はFAXでお申し込みください。

尚、シンポジウム終了後、同じURLにおいて報農会主催の第37回功績者表彰式をオンラインで行いますので、よろしければご参加ください。

連絡先：公益財団法人報農会事務局

〒187-0003 東京都小平市花小金井南町 1-12-11 BLOSSOM みさと

TEL/FAX：042-452-7773

Email：khon0511@car.ocn.ne.jp

URL：<http://www.honokai.org/>

行政からのお知らせ

1. 食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件について

農林水産省消費・安全局
農産安全管理課農薬対策室
令和4年5月20日

このことにつきまして、別紙のとおり令和4年5月20日付け生食発0520第1号厚生労働省大臣官房生活衛生・食品安全審議官通知が出されましたので、お知らせします。

食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件（令和4年厚生労働省告示第181号）により、下記の申請に係る農薬の残留基準値が設定又は変更されました。

記

ウニコナゾールP
オキサチアピプロリン
カズサホス
ピリベンカルブ
プロフラニリド
ペンディメタリン

別紙は以下のとおり

<https://znouyaku.or.jp/cms/wp-content/uploads/2022/05/20220520betsushi.pdf>

2. 「農林水産研究イノベーション戦略2022」の策定について

令和4年5月24日
農林水産省

1. 「農林水産研究イノベーション戦略2022」について

農林水産省では、生産現場が直面する課題を解決するための研究開発や地球温暖化対策など中長期的な視点で取り組むべき研究開発を総合的に推進しています。

本戦略は、日進月歩の科学技術の発展を踏まえ、食料・農業・農村基本計画に基づき毎年度策定することとしており、今般の戦略では、「持続可能で健康な食の実現」、「2050年カーボンニュートラル達成への貢献と資源循環の追求」、「スマート農林水産

業の早期実装を通じた諸課題の解決」をテーマに、今後の研究開発の方向性を示しました。あわせて、産学官と現場が一体となった研究開発環境の整備強化の方向性を示しました。

2.概要

第1部 農林水産研究をめぐる最近の社会・経済や政策の情勢

ポストコロナ社会への対応、サプライチェーンリスク、健康と環境に良い食料システム、脱炭素化、デジタル化等について、我が国の現状や海外の動きを分析・整理。

第2部 重点的に行う研究政策

最近の施策や国際情勢を踏まえ、「持続可能で健康な食の実現」、「2050年カーボンニュートラル達成への貢献と資源循環の追求」、「スマート農林水産業の早期実装を通じた諸課題の解決」の研究開発に関して、目指す姿、実現に向けた具体的な方向性と道筋を提示。

第3部 研究開発環境の整備

研究開発と成果の普及を効果的に行うため、研究推進制度の充実、戦略的な知的財産マネジメントや国際標準化、人材育成、オープンイノベーション等の研究開発環境の整備と強化の方向性を提示。

農林水産研究イノベーション戦略 2022 添付資料

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/220524-2.pdf>

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/220524-3.pdf>

3. 「牛乳でスマイルプロジェクト」の立ち上げと本プロジェクトへの参加について

4畜産第685号
令和4年6月10日

平素より、農林水産行政にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

農林水産省と一般社団法人Jミルクでは、様々な企業・団体・自治体など官民から多様な企業・団体等に加わっていただき、さらなる牛乳乳製品の消費拡大に取り組むため、牛乳月間（6月）を契機に、本日、「牛乳でスマイルプロジェクト」を立ち上げました。

本プロジェクトでは、共通ロゴマークの下

- ① 参加企業・団体等が独自に販促・PR 活動を行い、消費拡大を呼びかけるとともに
- ② 業界の枠を超えた連携を含め、本プロジェクトの参加企業・団体等同士が新たに共同で取り組むキャンペーン等を促し、消費拡大の輪を広げることを目指します。

また、本プロジェクトの参加企業・団体等を対象とした交流会等の開催を通じ、牛乳製品をはじめとした国産畜産物が国民の健康的な食生活を支えていることや、畜産・酪農が地域の資源循環に貢献していること等の理解を醸成することで、参加企業・団体等から国民への情報発信がなされることを期待します。

農林水産関係事業者団体におかれては、本プロジェクトへの参加について、ご検討いただければ幸いです。ご参加いただいた企業・団体等は、農林水産省のウェブサイトでご紹介いたします。

- ロゴマーク（商標登録出願中）



牛乳製品を食事に取り入れることで、笑顔になってほしいというメッセージを込めました



- 申し込み方法

参加の申し込みは以下のウェブサイトからお願いいたします。

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/gyunyu/lin/gyunyu_smile.html

4. 「農薬として使用することができない除草剤の販売等について」の周知徹底について

4消安第1568号-1
令和4年6月15日

全国農薬協同組合 理事長殿

農林水産省消費・安全局農産安全管理課長

農薬取締法（昭和23年法律第82号。以下「法」という。）第22条第1項に規定する農薬以外の薬剤であって、除草に用いられる薬剤（以下「農薬に該当しない除草剤」という。）については、「農薬として使用することができない除草剤の販売等について」（平成31年3月28日付け薬生薬審発第0328第8号・30消安第6268号・2019製化管第32号・環企発第1903287号・環水大土発第1903281号厚生労働省医薬・生活衛生局医薬品審査管理課長、農林水産省消費・安全局農産安全管理課長、経済産業省製造産業局化学物質管理課長、環境省大臣官房環境保健部環境保健企画管理課化学物質審査室長、環境省水・大気環境局土壌環境課農薬環境管理室長通知。以下「除草剤通知」という。）により、販売に当たっての留意点等を示し、貴会におかれては、傘下の会員に対する周知をお願いしてきたところです。

しかしながら、法第22条第2項において除草剤販売者（除草剤の小売を業とする者に限る。）に義務づけられている農薬に該当しない除草剤を農薬として使用することができない旨の表示が、販売所によっては、実施されていない等の事例が確認されています。

つきましては、法で規定する表示が販売所において確実に行われるよう、貴会におかれては、傘下の会員に対し、除草剤通知を改めて周知徹底いただきますようお願いいたします。

なお、法第23条第1項の規定により、農林水産大臣は、除草剤販売者が法第22条の規定を遵守していないと認めるときは、当該除草剤販売者に対し、必要な措置をとるべき旨の勧告をすることができ、また、法第23条第2項の規定により、農林水産大臣は、同条第1項の規定による勧告を受けた除草剤販売者が、正当な理由がなくその勧告に係る措置をとらなかったときは、当該除草剤販売者に対し、その勧告に係る措置をとるべきことを命ずることができることとされていることにご留意ください。

5. 令和4年度の蜜蜂被害軽減対策の推進について

4 消安第 1581 号
4 畜産第 731 号
令和 4 年 6 月 22 日

全国農薬協同組合理事長 殿

農林水産省消費・安全局農産安全管理課長
畜産局畜産振興課長

このことについて、別添のとおり、地方農政局等を通じ、各都道府県に通知しましたので、御理解及び御協力をお願いします。

(別添)

令和4年度の蜜蜂被害軽減対策の推進について

農薬の関与が疑われる蜜蜂被害対策については、平成 25 年度からの3年間に蜜蜂の被害と周辺作物の作付状況及び農薬の使用状況との関連性等の情報を収集した結果に基づき、被害を軽減するための対応の周知・指導をお願いしているところである。

令和4年度においても、引き続き、農薬等による蜜蜂の被害を軽減するため、下記の事項について了知の上、貴管下の各都道府県に対し、周知・指導願いたい。

なお、下記の事項を実施するに当たっては、必要に応じて、消費・安全対策交付金を活用するよう、併せて周知願いたい。

記

- 1 農薬による被害の低減について
 - (1) 蜜蜂の被害に関する認識の共有
 - (2) 情報共有の更なる徹底
 - (3) 被害軽減のための対策の推進
 - (4) 対策の有効性の検証等
- 2 蜜蜂に寄生するダニの被害の低減について

別添詳細は以下より

<https://znouyaku.or.jp/cms/wp-content/uploads/2022/05/20220520betsushi.pdf>

全農薬ひろば

アジサイ（紫陽花、英名：Hydrangea、学名：Hydrangea macrophylla）

アジサイ科アジサイ属の落葉低木の一つ。「アジサイ」の名はアジサイ属一部の総称として用いられるが、ここでは品種の一つ *H. macrophylla* f. *macrophylla* の和名である「アジサイ」（原種は日本に自生する「ガクアジサイ」）の花色について紹介する。

花（花弁でなくがく）色はアントシアニン植物色素群の一種のデルフィニジンにアルミニウムイオンと補助色素が加わることで青色となる。花色は土壌のpHによって変化することが知られ「酸性で青、塩基性で赤」になる。一般的にデルフィニジンを含むアントシアニン類色素は「酸性水溶液中で赤、塩基性水溶液中で青」となるがそれとは逆になる。これは根からアルミニウムの吸収にpHが影響しているため、土壌pHが低いとアルミニウムがイオンとなって根から吸収され易くなり、吸収されたアルミニウムがアントシアニンと結合し青色を呈するが、アルミニウムは土壌pHが高いと吸収されづらいので、青色にならない。

遺伝的に補助色素の少ない、あるいは効果を阻害する成分を持つ品種もあり、土壌pHが低くても青色にならないものもある。さらに、様々な要素により影響され、土壌の窒素が多くカリウムが少ないと赤色が強くなったりする。

他に花色が緑色の品種もあるが、緑色が品種による特性ではなく、ファイトプラズマの感染による「アジサイ葉化病」にかかったものが、稀に観賞用として販売される場合がある。この病気は経年で株を衰退させる。また、葉化病は半翅目昆虫（昆虫種は未解明）により媒介され、周囲のアジサイに感染拡大の懸念があるため、発病株は処分するのが望ましい。

（一部 Wikipedia 等より引用）



撮影場所：藤沢市親水公園、新林公園

花言葉：青『辛抱強い愛情』赤『元気な女性』

